

函館工業高等専門学校		開講年度	令和03年度（2021年度）		授業科目	プラクティカル・サイエンス・イングリッシュ	
科目基礎情報							
科目番号	0039		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	Fundamental Science in English (Seibido) / TOEIC 公式問題集 / Speaking of Speech New Edition (MACMILLAN)						
担当教員	奥崎 真理子,オレクサ ロバート						
到達目標							
・特別研究を英語で発表できる ・特別研究の内容を英語でスライド化できる ・特別研究について英語で質疑応答ができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1：特別研究を英語で発表できる	特別研究を英語のプロソディを保ちながら自然体で発表できる		特別研究を、ある程度の英語のプロソディを保ちながら制限時間内に発表できる		特別研究を英語で発表できない		
評価項目2：特別研究の内容を正しく英語でスライド化できる	特別研究の内容をほぼ正しい英語でスライド化できる		特別研究の内容を、文法的な間違いは散見されるがある程度英語でスライド化できる		特別研究の内容を英語で示しているが、日本語の直訳（機械翻訳など）で英語の意味をなさない		
評価項目3：特別研究について英語で質疑応答ができる	特別研究の内容について英語でよくどみなく質疑応答ができる		特別研究の内容についてある程度の質疑応答ができる		特別研究の内容について質疑応答ができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達目標 D-1 学習・教育到達目標 E-4							
教育方法等							
概要	英文の科学技術文書を読んで必要な情報や要点を把握することができる能力を身につけ（D-1）、将来仕事で国際的なコミュニケーションを行うために必要な基礎的英語表現力と理解力を養う（E-4）。最終的には、専攻科で取り組んでいる特別研究を国際学会で発表し、質疑応答ができることを学習到達目標とする。						
授業の進め方・方法	前半を日本人英語科教員とアメリカ人英語科教員が指導し、基本的なプレゼンテーション技能、基礎的な英語表現力・理解力の定着を目指す。後半は集中講義の形態をとり、イギリス人教員（非常勤・北大大学院工学部教授）と日本人教員・アメリカ人教員のチームティーチング方式で、特別研究英語プレゼンテーションの演習を行い、2日間で発表と評価を実践的に指導する。						
注意点	特別研究の英語プレゼンテーションと質疑応答ができることがこの演習の目標であるので、コミュニケーションに必要な英語のみならず、専門英語についても語彙力・表現力を高めていくこと。 プレゼンテーション(前期)発表：20%(D-1:50%, E-4:50%) 前期の評価が12%を下回った場合は補習対象となる。 前期試験：30% (D-1:50%, E-4:50%) 前期の評価が18%を下回った場合は再試験対象となる。TOEIC IP または公開テストで500点以上の場合はスコアシートの証明を以て試験を免除する。 後期集中特別英語プレゼンテーション発表と質疑応答：50% (D-1:50%, E-4:50%) 特別研究英語プレゼンテーション発表と質疑応答の評価が30%を下回った場合は再発表(質疑応答含む) 対象となる。 専攻科2年生12月までに国際学会の発表実績があれば最終成績に10点を加点する。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス Lesson 1		・授業の進め方、評価方法、課題について理解する ・個人の学習到達目標を組み立てる ・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
		2週	Lesson 1		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
		3週	Lesson2		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
		4週	Lesson2		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
		5週	Lesson3		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
		6週	Lesson4		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
		7週	Lesson5		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
		8週	Lesson5		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		
	2ndQ	9週	Lesson6		・dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・プレゼンテーションの発表と自己評価ができる		

後期		10週	Lesson6	・ dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・ プレゼンテーションの発表と自己評価ができる
		11週	Lesson7	・ dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・ プレゼンテーションの発表と自己評価ができる
		12週	Lesson9	・ dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・ プレゼンテーションの発表と自己評価ができる
		13週	Lesson10	・ dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・ プレゼンテーションの発表と自己評価ができる
		14週	Lesson10	・ dictationを通して、語彙力理解力表現力を身につける ・ プレゼンテーションの発表と自己評価ができる
		15週	特別研究プレゼンテーション準備	・ 英語で特別研究プレゼンテーションスライドを作る
		16週	前期期末試験	・ 学習の理解度を確認できる
	3rdQ	1週	特別研究プレゼンテーションの発表方法について	・ 発表準備に必要な技能を理解する
		2週	特別研究プレゼンテーションの発表方法について	・ 発表準備に必要な技能を理解する
		3週	特別研究プレゼンテーションの発表方法について	・ 発表準備に必要な技能を理解する
		4週	特別研究スライドのチェック	・ 教員とのやり取りを通じて、スライドの完成度を上げる
		5週	特別研究スライドのチェック	特別研究スライドのチェック
		6週	特別研究スライドのチェック	特別研究スライドのチェック
		7週	特別研究発表リハ	特別研究のリハーサルを通じて改善点を見つけ出せる
		8週	Q&A練習	グループディスカッションを通じて即興の質疑応答に慣れる
	4thQ	9週	Q&A練習	グループディスカッションを通じて即興の質疑応答に慣れる
		10週	特別研究発表、質疑応答と評価	特別研究を英語で発表し、質疑応答をこなすことができる 特別研究の英語プレゼンテーションを理解し、質疑ができる
		11週	特別研究発表、質疑応答と評価	特別研究を英語で発表し、質疑応答をこなすことができる 特別研究の英語プレゼンテーションを理解し、質疑ができる
		12週	特別研究発表、質疑応答と評価	特別研究を英語で発表し、質疑応答をこなすことができる 特別研究の英語プレゼンテーションを理解し、質疑ができる
		13週	特別研究発表、質疑応答と評価	特別研究を英語で発表し、質疑応答をこなすことができる 特別研究の英語プレゼンテーションを理解し、質疑ができる
		14週	特別研究発表、質疑応答と評価	特別研究を英語で発表し、質疑応答をこなすことができる 特別研究の英語プレゼンテーションを理解し、質疑ができる
		15週	特別研究発表、質疑応答と評価	特別研究を英語で発表し、質疑応答をこなすことができる 特別研究の英語プレゼンテーションを理解し、質疑ができる
		16週	特別研究発表、質疑応答と評価	特別研究を英語で発表し、質疑応答をこなすことができる 特別研究の英語プレゼンテーションを理解し、質疑ができる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16

				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
		英語運用能力の基礎固め		日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
		英語運用能力向上のための学習		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	4	前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合						
	試験	発表	教科書プレゼン	自己評価	合計	
総合評価割合	30	50	10	10	100	
基礎的能力	20	20	5	5	50	
専門的能力	0	20	0	0	20	
分野横断的能力	10	10	5	5	30	